

桜工

2016

目次

あすも翔ぶ	
人力飛行機による日本記録への挑戦	「安部 建一」……………2
歴史に残るチャレンジへの協力	「藤田 泰秀」……………3
霞ヶ浦での人力飛行機による	
周回飛行世界記録挑戦の支援に思う	「人見 一教」……………3
飛べなかったパイロットの思い出	「徳弘 翔太」……………4
1つの目標に向かって	「宇佐美皓平」……………4
活躍する校友……………5	
東京都の技術職員として	「佐野 克彦」……………
風と建築とコンピュータ	「星 睦廣」……………
下請けからメーカーへ	「中野 和明」……………
天命を感じて人生を歩む	「須永 幸彦」……………
国民の安全安心のために	「植松 一郎」……………
情熱を持って前向きにチャレンジ	「酒井 篤史」……………
日大そして日大付属の使命	「川原 容子」……………
守備範囲とオープンイノベーション	「岩坂 照之」……………
ソフトウェアの世界に魅せられて	「久保 武良」……………
学生時代あつての「畑違い」	「小池 正昭」……………
後進を支える循環を	「四戸 哲」……………
日本の電子産業について	「月崎 義幸」……………
理工学部・校友会 NEWS……………11	
平成27年度日本大学理工学部校友会奨学金奨学生証書授与式	
工科系校友会支部長会ならびに理工学部／顧問・相談役工	
科系校友会連絡会ならびに懇親会の開催	
理工学部校友会教育支援	
ホームカミングデー	
各部会講演会活動報告……………14	
学術賞および学会・協会賞受賞者……………16	
入試・就職……………18	
部会だより……………21	
支部一覧……………27	
支部だより/クラス会だより/事務局だより(事務報告・収支報告等・会費納入者名簿)	
平成27年度第二十七回「桜工賞」……………35	
6号館の思い出……………36	
46年間お世話になりました	「野木 靖之」……………
駿河台図書館物語	「龍田由紀子」……………
9号館の思い出……………37	
9号館と数学科	「馬場恵美子」……………
震災復興特集	
復興道路 現在、建設中!	「」……………38
福島復興のために必要なこと	「豊田 毅」……………39



人力飛行機による日本記録への挑戦 —校友会の協力—



航空宇宙工学科 非常勤講師
安部 建一
(機械工学科・航空専修コース：S47年卒)

1977年の7月に、ロンドンでテムズ河に翼をつけた人が飛び込んで行った夏のお遊びをよみうりテレビが模して「鳥人間コンテスト選手権大会（以下、鳥コン）」と銘うって産声をあげた。今年の夏で第39回大会を迎える。本学はこれまで滑空機部門の2回を含めプロペラ機部門の7回と計9回の優勝を誇る。

2003年の第27回鳥コンに出場した Möwe 20 (Möwe はドイツ語でカモメ) は離陸後、琵琶湖大橋まで南下した。その大橋は潜ることを許されなかった。審判長の着水命令による記録であるが 34,654.10 m 飛行し、大会記録を大幅に塗り替えた。

帰校後、パイロットの体力を残したまま着水したことや、「もっと飛べたのに。物足りない・・・」という声も上がり、この機体で記録飛行に挑戦することになった。そこで、海上保安庁に相談した結果、駿河湾で挑戦場所を提示された。離陸地での関係各所と打合せするに際し、日大山形高校で2002年に人力飛行機の講演後に校友会山形県支部の皆様と歓談したところ、息子も絶対、理工学部に入りたいとの声が多く、母校愛の強さを知ったことを思い出し、校友会



Möwe 20 琵琶湖での離陸

窓口を訪ねた。校友会の近藤勉先生から教え子でもある静岡県支部長をご紹介頂き、県庁から漁業協同組合まで多くの交渉のお手伝いを頂いた。Möwe20の3年生は翌年の4月から始まる卒業研究に着手する前の3月末までを期限として準備を行い、2004年3月21日に富士川滑空場から離陸し 11,874 m の日本記録を更新することができた。

引き続き2004年の鳥コンは台風のため Möwe21 は帰校した。ここで、強力なエンジンを擁していたので、再び支部のご支援をいただき、飛行距離 49,172 m、滞空時間 1 時間 48 分 12 秒の日本記録を大幅に更新した。現在もその記録は破られていない。

また、2011年の第34回の鳥コンに出場する Möwe 28 は不合格通知を受けた。ここで、大学より安近短である霞ヶ浦で周回飛行の世界記録に挑戦するため再び校友会茨城県支部を紹介して頂いた。強風による尾翼の破損やパイロットの怪我もあり丸4年の挑戦となった。挑戦は尾輪を当てての離陸、着水と結果は満足できないものであったが、長きに渡り世界記録挑戦にご協力を頂いた校友会各位に紙面をお借りして改めてお礼を申し上げる。



Möwe 18 試験飛行

歴史に残るチャレンジへの協力

藤田 泰秀

静岡県工科会会長
(土木工学科：S48年卒)

2003年9月16日 NHKプロジェクトXで「運命の滑走（日本初的人力飛行機に挑む）」が放映された。言わずと知れた故木村秀政教授の「リネット号」一号機のお話である。私たち卒業生は心をときめかせて映像に見入った。その感動も鮮明の中、12月25日に当時静岡県田子の浦管理事務所長だった大久保先輩から静岡県支部事務局の私に電話が入り、翌々日「道の駅富士」で日大航空研究会のメンバーと安部先生に初めて会い、富士川滑空場から新記録挑戦を2004年3月に実行したいので協力を頼むとのことだった。



年明けの1月24日に静岡市グランシップで行われた静岡県工科会総会では約200名の参加者を前にキャプテン谷中君たち学生が、「地上の星」をBGMにその計画と夢を語り、全員から支持と資金カンパを集めることができた。

早速このフライトに向け、漁協との調整、機材の運搬車輻、保管場所確保、報道機関連絡、資金援助を準備した。更に案内看板作成、ウエットスーツ手配、滑走路測量など仕事上のノウハウを動員した協力を得た。そして、3月21日夜明けに平綿君をパイロットに駿河湾に向けてMöwe20がテイクオフし、約12kmのピックフライトに成功した。冬季の西風に翻弄されながらも、無事に記録達成ができ、静岡県支部としても喜びに浸った。

ところが2005年5月16日安部先生から私宛に電話とともに一枚のファックスが送られてきた。昨年は強風のため飛距離が伸びず何とかリベンジしたいとの決意のもと、今度は気候の安定する8月に三保空港で再挑戦したいとのことでした。

静岡県支部では5月30日緊急会議を開き、この期間中に新たな三保空港では手続きや地元の協力は困難との判断により、「昨年同様の富士川なら協力しよう！」との水口支部長の決断で意思統一した。6月4日に安部先生と支部事務局の齋さんが調整して、計画を「富士川」に変更して挑戦することに決まった。早速6月14日に支部の対策会議を開き、具体的な準備に入った。昨年の経験を活かし、水口会長はじめ関係者が精力的に動き、24日漁船やダイバーの手配、7月6日に機材の保管場所、20日には運搬車の確保、そして8月4日漁協との最終打ち合わせと進んでいった。

そして、8月6日早朝、微風追い風の中Möwe21はテイクオフした。Möwe21の機体は朝日に照らされキラキラ光り、3隻の漁船に伴走されながら駿河湾を超え49.2kmの日本記録を樹立した。

静岡県工科会として歴史に残るチャレンジに協力できたことは、大変光栄に思うと同時に、大学と地方支部の関係のあり方を今後も大きな誇りと教訓として語り継いでいきたいと思っております。

霞ヶ浦で的人力飛行機による 周回飛行世界記録挑戦の支援に思う

人見 一教

茨城県支部 支部長
(土木工学科：S47年卒)

人力飛行機による世界記録樹立に挑戦。しかも、茨城県霞ヶ浦上空で実施したい旨、理工学部安部研究室航空研究会から工科系校友会茨城県支部に打診があり、当時支部事務局の小林政弘氏が霞ヶ浦を管内とする茨城県竜ヶ崎工事事務所長であったので、平成23年5月中旬頃、航空研究会から一番近い当事務所において、安部先生による詳細説明を受けました。同席したのは、宍戸薫氏（前支部長）、小林政弘氏（現事務局長）、そして私（当時事務局長）の3人。茨城県においては東日本大震災の復旧の真最中であったと記憶しています。



茨城県支部は霞ヶ浦で是非、人力飛行機による世界記録の樹立を成功させたいとの思いから、全面協力していく事で役員の方の理解を取り付け、早々、宍戸氏を中心に私と豊島信拓氏（現副支部長）、石津重信氏（現副支部長）、細谷武史氏（事務局）など数名の対応班を編成しました。

まずは、霞ヶ浦上空を飛行するために、必要な手続き及び許可申請等の事前打ち合わせをすべき関係機関に挨拶に上がり、その中で、諸条件の確認や事業の理解・協力をお願いをして回りました。交渉にあつては校友会員を通じながら調整を行い、実施場所は茨城県美浦村大字大山地区に決定しました。（なお、関係機関は国土交通省霞ヶ浦工事事務所、茨城県庁、美浦村役場、竜ヶ崎警察署、地元消防署、霞ヶ浦北浦海区漁業組合等で）改めて担当の方々のご協力を感謝申し上げます。

人力飛行を実施するためには、現場条件を整理したうえで、丘には臨時滑走路、湖上には一周23km三角形にブイなどを設置する必要があり、第1回挑戦 平成24年10月5日（滑走路不備）。第2回挑戦 平成25年8月2日（天候不順）。第3回挑戦 平成26年10月12日（機体破損）。その都度、茨城県支部が一丸となって飛行機が飛べるよう準備を整えたところであります。

特に、工科系校友会茨城県支部の石津重信氏（常総開発工業㈱）による湖上ブイ設置関係及びダイバーの手配を、また、細谷武史氏（大昭建設㈱）による滑走路設置等のご協力を頂きました。

そして、滑走路等の借地や広報等にご協力を頂きました美浦村村長 中島栄氏、その他多大な援助を頂いた皆様方には、この誌上をお借り致しましてお礼申し上げます。

本県においては、残念ながら世界記録の達成は成りませんでした。引き続き挑戦して頂きますよう茨城県支部一同応援してまいります。

飛べなかったパイロットの想い出

徳弘 翔太

31 代目パイロット
(航空宇宙工学科：4 年)

初めまして。Möwe シリーズ 31 代目パイロットの徳弘翔太です。鳥人間コンテストでは 2014 年度のパイロットになります。まずは簡単に私の代の結果を書かせてもらいますと、強風による棄権判断をとり、機体を綺麗な状態で持ち帰り、私の代の挑戦は終わりました。



結果からするととても残念なものであり、その時はかなりの絶望感に打ちひしがれていました。しかし、今の私にそのような絶望感はありません。その経緯を少し書かせてもらいます。

私は一年生の頃からパイロットとして優勝することだけを考え、ただがむしゃらに毎日トレーニングをしてきました。私のクルーもその考えに賛同してくれ、皆で必死にやってきました。ただ、その為に私は少しわがままなパイロットになっていたと思います。トレーニングのためになかなか作業は手伝えず、試験飛行が終わった直後からクルーたちと長い時間話し合い、かなり厳しい注文もしていたと思います。しかし、クルーたちはそんな私を支えてくれ、最高の機体を作ってくれました。

そして私は完璧な機体と共に絶対の勝利を誓い本番当日を迎えました。しかし、天候は前述の通りで、棄権か決行かの判断に迫られました。私はこれまで支えてくれた仲間のためにも当然飛ぶ覚悟でいました。しかし、クルーたちは私の身を案じ、この状況でパイロットを飛ばす訳にはいかないと言いました。私はあらためて仲間たちに尊敬の念を持ち、また自らもエンジニアの卵として棄権を決断しました。

その我々の決断の後、風はどんどん勢いを増し大会側が大会不成立を発表しました。我々は大会側からの命令で飛ばなかったのではなく、自らの判断で飛ばない決断をできたので、そのことにも意味があったのだと今となっては思います。

自分たちの代が終わり後輩の代になってからは、後輩パイロットの宇佐美くんの指導により一層励みました。私は自分が現役の時は自分に手いっぱい、あまり宇佐美くんの指導をしてきませんでした。しかし、終わってみると先輩や支えてくれた方々のありがたみにあらためて気づき、おせっかいとは思いつつも試験飛行などでは毎回参加し指導させてもらいました。

そして、宇佐美くんが大記録を出してくれた時、確かに引き継がれている航研魂を感じると共に私のやってきたことも無意味ではなかったのだと思うことができました。

宇佐美くんには感謝の言葉しかありません。そして、この仲間たちと共に活動できたことに本当に感謝しています。

1 つの目標に向かって

宇佐美 皓平

32 代目パイロット
(航空宇宙工学科：3 年)

航空研究会は毎年 7 月末の大会に出場するべく、3 年生を中心とした作業班を編成して人力飛行機の製作をします。2015 年度は、3 年生 10 人、2 年生 10 人が、パーツごとに 6 班に分かれ、休日返上で連日 22 時近くまで作業を行いました。作業の進捗状況を常に管理するなど、全ての運営を学生のみで行い、全員が 1 つの目標に向かい活動してきました。



私たちの機体は「効率よく 20km 飛行する」という目標を第一に掲げました。2014 年大会で棄権を余儀無くさせられた強風。琵琶湖では目まぐるしく変化する多方向からの不安定な風に対応する必要があります。そのため高速化と尾翼設計の見直しで安定性を、また 20km 先での旋回を考慮した操縦性能の向上を両立させ、効率化を図りました。この他に新たな試みとして、33m の主翼を 5 分割から 11 分割に変更するなどし、輸送用トラックを従来の 10t から 2t で済むようにしました。車両とドライバーの確保を容易にするとともに、輸送コストの大幅な節減で遠征費用を捻出し、この変更が学外の広い滑走路で長距離操縦訓練を実現でき、操縦技術向上に大きく貢献しました。

大会当日、夜が明け、機体は高さ 10m のスタート地点まで慎重に運び上げられ、西方向にセットされました。左後ろからやや強めの風を受けていましたが意を決し Take off。プラットフォームで聞こえていた凄まじい声援が後方に消え去り、機体をすり抜ける風の音だけになりました。フライトが始まると、進路を西側の多景島にとり、序盤の 5km を高速で通過しました。その間機体をコントロールするのに精いっぱいでした。20 分が経過し、進路を南の折り返し地点に変更。その後 12km 地点から 2km ほど風が乱れている区間を通過する際、急にペダルが重くなり左足が痛み始めました。低空飛行を続けながらなんとか 20km 到達を知らせるホーンがなり、旋回開始。緩やかに旋回を続けるうちに視界には多景島と太陽の光が飛び込んできました。しばらくすると、不意に水切り音が聞こえました。着水を回避するために全力でプロペラを回したその瞬間、下半身の筋肉が広範囲につってしまい、何とか機体を引き上げたものの回転数が思うように上がりません。激痛に耐えながら力を振り絞って回転数を高め、細かく舵を切り続けましたが、何度も水を切るのを感じ、機体は静かに着水してしまいました。飛行距離 22,892m、飛行時間 60 分。優勝はできませんでしたが、総合順位 2 位に加え、審査員特別賞まで受賞しました。日大理工学部としても歴代 2 位を記録しました。私たちはチームで目指してきたものを形にした飛行機を作りあげることができました。



鳥人間コンテスト 2015
人力プロペラ機ディスタンス部門

福島復興のために必要なこと

豊田 毅

鹿島建設(株) 東北支店 いわき市復興公営住宅基盤整備工事担当
(土木工学科：S60 年卒)

東日本大震災から5年目を迎えようとしています。東北で約30年、仕事をさせて頂き、自然の有難さ・恐ろしさ、人間の無力さを感じつつ年月を過ごしてきました。現在は除染・減容等の関連事業に従事しています。

私のいる福島県は東京電力福島第1原発事故の影響で県内各市町村において除染作業が進められています。県民の約5%である約10万人の住民の方が避難生活を余儀なくされ、震災前に比べて11.5万人の人口が減りました。

福島復興に不可欠なのは、原発事故で発生した指定廃棄物の最終処分場建設と除染廃棄物を保管する中間貯蔵施設建設です。最終処分場は福島県や宮城県等、発生した県で処理することが決められていますが福島県以外は地元の理解が得られないために、受入が決まっていません。この2つが早く解決されない福島復興と避難している住民の方の帰還は遠のくばかりです。

私は現場で最悪の事を想定し、事故が起きないように設備を整え、楽観的に行動することをモットーにしています。私達技術者は、ものを造るだけでなく、トータル的にハードとソフト面で、住民に受け入れられるものを計画、構築すべきであり、きちんと維持管理をすることで住民に受け入れて貰

うと同時に、技術者は“想定外”という言葉は口にすべきでない日々、感じています。明日を背負う若い世代にこれ以上、負担をかけてはいけないと思います。

福島県をはじめ被災県に求められるのは“思いやりと自立に向けた取り組み”、そして土地問題を解決すべく、国等の“大きな力”が必要だと思います。

環境省はじめ、行政サイドも、住民の方も大変、努力をしています。私も福島復興のため、自分で何が出来るのか？を常々、考えて行動しているつもりです。日本の技術、英知と知恵を結集して、福島第一原発の廃炉を推進させて、福島の一日も早い復興を願うばかりです。福島県にこれからも皆様の温かいご支援をお願いいたします。

最後に私が応援している日本大学ラグビー部が、入替戦に勝利し、リーグ戦1部にめでたく復帰しました。建築学科の学生も所属していますので校友の皆様には是非、試合会場に足を運んで、選手達を応援して頂きたいと思います。若い力は素晴らしいです。



【H27 環境省 実証事業】除染状況



【H27 環境省 実証事業】除染廃棄物仮置場



【H27 環境省 実証事業】除染廃棄物仮置場



【日大ラグビー部】入替戦後 校歌を歌う



解体前の『理工学部6号館：図書館の入り口』



解体前の『理工学部9号館』
<1972年（昭和47年）9月竣工>



解体前の『理工学部6号館』
<1961年（昭和36年）7月竣工>

編集後記

2度目の会誌委員を拝命した。初回は平成22年度から24年度までであり、その間、理工学部校友会創立60周年、理工学部創設90周年と短期大学部創設60周年の記念号作成に携わった。次いで、後任の方々による東日本大震災復興の現状、取り組みが3年間報告された。今号は性能向上著しい、人力飛行機を特集として組んだ。寄稿内容から、志を共有する方々のこれまでの苦労とたゆまぬ精進が伝わり、まさにドラマチックな歴史を見るようである。

桜工も同様、先輩諸氏たちの積み重ねを、我々は引き継いでゆかねばならない。共に力を合わせてなしえる作業、その中で自らの役割をかみしめているところである。
(会誌副委員長 関口優紀)

会誌委員会 ((委員長 ◎、副委員長 ○))

◎半貫 敏夫 ○関口 優紀 ○仲 滋文 川村 昇進 岩井 茂雄 山崎 栄介 吉田 幸司 富永 茂 角 耀
夏見 直之 小嶋 芳行 山田 文嗣 佐藤 有治 瀬戸 満夫 居駒 知樹 安部 明雄 高橋 友彰

- 住所表示・勤務先・TEL番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
 - クラス会等に『桜工』をお送りいたします。(実費&送料が必要です)
 - クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？
- 会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。

*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内
日本大学理工学部校友会事務局
TEL: 03-3259-0650
FAX: 03-3293-1370 (江口・田中)
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

平成28年度通常総会開催予定

日時：平成28年6月17日(金)
会場：東京ガーデンパレス

平成28年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

(日本大学工科校友会)



編集・発行者 半貫 敏夫
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社トーコー印刷